

## メシマコブが有効だったと思われる癌術後患者の 3 例

Three post-operative cancer patients *Phellinus baumii* was considered to be effective

星野 元<sup>1)2)</sup>, 村田 幸治<sup>3)</sup>

1) いちご診療所, 2) 島根医科大学環境生理学, 3) ナーシングセンターひまわり

We administered *Phellinus baumii* (Snowden MESIMABETA) to three post-operative patients with cancers. *Phellinus baumii* was considered to be effective in reducing various severe side effects caused by anti-tumor drugs. Anti-tumor effect can also be expected when using *Phellinus baumii* for post-operative cancer patients.

### 【目 的】

癌治療のうち、化学療法では、多くの患者は延命効果の代償として激しい副作用に悩まされる。近年、生体防御機構の増強を目的に、植物由来の免疫賦活物質の開発が盛んである。われわれは、抗癌性多糖類のメシマコブ茸を癌切除術後患者 3 例に併用したところ、抗癌剤やインターフェロンの副作用軽減効果および免疫能の賦活化を認めたので報告する。

### 【症 例】

症例 1) 44 歳女性。平成 14 年 2 月に S 状結腸癌と診断され、同時に肝臓、肺、直腸に転移が認められた。原発巣の切除後、フルオロウラシル (810mg) とレボホリナートカルシウム (337.5mg) の投与を行ったが、投与開始直後より嘔吐等の副作用が現れたため、抗癌剤投与の継続とともにメシマコブ (1.0g/day) (*Phellinus baumii* [Snowden MESIMABETA]) の服用を実施した。服用約 10 日後から嘔吐等の副作用は見られなくなり、同年 6 月の CT 検査では転移巣の縮小が認められた。

症例 2) 62 歳男性。平成 12 年 11 月に腎細胞癌のため左腎全摘術を行い、術後 3 ヶ月の検査で腫瘍マーカーの IAP の上昇を認めたため、インターフェロン (300 万 IU) を 10 ヶ月間投与した。その結果、IAP 値は基準値内になったものの、全身倦怠感等の副作用を認めたため、インターフェロン 投与は中止してメシマコブ (0.5~1.5g/day) を 8 ヶ月間服用したところ、IAP 値はさらにやや低下し副作用は消失した。

症例 3) 42 歳女性。平成 14 年 4 月に直腸癌の切除術を行い、その後フルオロウラシル (870mg) とレボホリナートカルシウム (362.5mg) の投与と同時にメシマコブ (1.5g/day) の服用を開始して 10 ヶ月間観察したところ、副作用の発現はほとんど認められず、CEA は継続して基準値内で、低値だった NK 細胞活性は基準値より高値に変化した。

### 【結 論】

今回の 3 症例から、メシマコブは、癌切除術後患者の抗癌剤やインターフェロン投与に起因する副作用を軽減するとともに、免疫賦活を促し症例によっては腫瘍縮小も期待できる可能性が考えられた。